

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194100269		
法人名	日成工業 株式会社		
事業所名	小規模多機能ホーム あさがお		
所在地	北海道釧路市興津2丁目29-44		
自己評価作成日	平成26年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2012\\_021\\_kani=true&JigyosyoCd=0194100269-00&PrefCd=01&VersionCd=021](http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2012_021_kani=true&JigyosyoCd=0194100269-00&PrefCd=01&VersionCd=021)

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成26年2月15日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

## 企業理念に基づき

介護とは人を介して行う仕事であることから、職員側の資質、人格が反映されると考え「個人の尊厳を主体とした関わりの大切さ」などを意識したケアと取組みを重視した職員への指導教育に力を入れております。職員が得意な部分を自ら発揮し利用者様とご家族様の思いをしっかりと受け止められる人となれるよう各々が介護事業を通じて共に成長していく企業を目指しています。

## ＜家族との関係作りの取組み＞

本人が小規模多機能ホームへ通所している時の様子や事業所の取組みや関わりを、家族の立場でどのように伝える事が安心感に繋がるかを管理者及び職員は十分に理解し、家族が知りたい情報を送迎時や連絡ノートを活用し、本人の様子や会話、健康状態を伝え、家族が安心して通所できるように取り組んでいます。また、毎月のモニタリングの訪問時には、家族の希望や意向、必要な情報交換を行い、職員間で情報を共有し、実践に活かせるように取り組んでいます。

## ＜外出機会の確保＞

日常的な散歩や外気浴等、戸外に出かけられるように支援しています。また、定期的に大型店への買い物ツアーや阿寒の道の駅や動物園、近郊の観光地への気分転換のドライブ、釧路市の港まつりや花見や紅葉散策等、普段行けない場所への外出支援を行っています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業としての理念を職員一人一人が理解してるとは言えない状況もある。今後は全ての面で意思疎通を図りたい。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくりあげ、定例会議で話し合い、職員全員が理念を共有できるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事は町内会の回覧板で情報収集します。参加できる行事は利用者様と参加します。今年度は町内会の草取に参加し美化に努めました。	町内会に加入し、盆踊り大会等の地域行事や花壇の草取りや清掃活動に参加して地域とのつながりを大切にしている。また、地元の小中学生の体験学習の受け入れもやっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に認知症理解の運動こそしていないが、地域の学生等が職場体験できたいは、職員から認知症についての勉強をさせている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に「逢人抱夢の会」(運営推進委員会)にて情報の共有等、サービス向上に繋がる活動は出来ている。	運営推進会議は年6回開催し、事業所内の取り組みや利用状況や地域への活動状況を話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃連絡を取ることはしていないが、担当者との雑談などで関係は築けている。	市担当者や包括支援センター職員との連携の重要性を理解し、業務での判断を迷った時や不明な点があれば、その都度、相談や助言を得ながら協力関係を築けるよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	企業、施設として身体拘束をしない事を掲げておりスタッフ一同、理解度はかなり高い。	管理者及び職員は指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を内部研修で正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	今後は外部での身体拘束の研修があれば積極的に参加し、内部研修でも行動制限につながる言葉がけや不適切なケア等の勉強会を検討しているので、その実践に期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で研修をすることは無いが、高齢者への虐待については細心の注意を払い取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当事業所では、市民後見人制度利用者様が入所された後、それまでは制度すら把握できていなかったが、今は職員一人一人が後見人から話を聞き、他事業所よりは詳しいと自負しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	終始わからない点がないよう、家族様には説明しております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等を利用し、全ての家族様ではないが、意見、要望が表せている。	送迎時や連絡ノートを活用して、本人の様子や会話、健康状態を伝え、家族が安心して通所できるように取り組んでいる。また、毎月のモニタリングの訪問時には、家族の希望や要望を表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は積極的に聞き、反映できる点は積極的に反映させている。	日常業務や全体会議を通じて、職員の意見や要望、提案を聞くよう機会を設けている。また、管理者とは必要に応じて個別面談を行い、運営に反映できるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場としての環境整備は年々向上している。他事業所との情報交換もしながら、当事業所にあった環境整備に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員の参加は人員不足から中々できない。代表者を研修に参加させ、研修内容を後日職員全員に周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当事業所では、小規模連絡協議会釧路支部に所属しています。月に一度役員会で、意見交換を積極的におこない、交換した情報は事業所内で周知している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を築くことでは、さほど苦にしていません。聞き上手の職員が多いことで、まずは利用者様のたくさんのお話を聞くことを心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前の面談回数を多くしてサービス利用後は、ある一定の信頼関係を気付けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前から様々な方面と連携をとり必要に応じた支援ができるよう環境整備に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には利用者様を自分の家族だと思いサービス提供している。少しでも利用者様に当事業所を心地よい環境を心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様を含め家族様の意向、気持ちも考え一定の関係性は築き上げている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	常に利用者様の気持ちを尊重し健康に配慮しながら支援出来ている。	通所を利用時に友人・知人が来訪したり、馴染みの理美容院やお店に出かけるなど馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の中には孤立される方はいますが、少しでも共同作業をすることによって関係性の改善に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	月末に発行しているあさがお通信を送らせていただき、簡単なお手紙を書いている。家族様に少しでも気軽に足を運んで頂けるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り、利用者様、家族様の意向を反映しています。ですができないこともありますので、できる限り意向に近づけるサービスを心がけています。	毎月のモニタリングでの家庭訪問や連絡ノートを活用して、本人の希望、意向を把握し、本人本位に支援が出来るよう取り組んでいる。また、普段の関わりの中からも聴取するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	直近の事は当たり前ですが、それ以前、キーパーソンの方が把握している情報は聴き取りをしている。特に仕事、出身地の話は細かく聞く。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の当日の身体状況をしっかりと把握し過ごし方、対応の仕方を考えている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、家族の思いを尊重し様々な視点でアイデアを出し情報共有し計画を作成している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見や要望を反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、カンファレンスやミーティングを通じて介護計画に職員の意見やアイデアを反映させるように取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な情報でも漏れがないように職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	支援ができているところはもちろんあるが、職員定着が厳しく全体的にみると支援出来ない点も多々ある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握しているものの、身体状況から中々楽しむ事ができない部分もある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、各月のかかりつけ医を把握し施設⇄病院との連携を取り適切な支援ができています。	受診については、かかりつけ医に家族が通院を行い、その際に必要に応じて通院の同行や、「身体情報ファイル」で必要な情報を提供し、適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が主に、利用者様との関わりが多いです。そんな中で、小さな疑問点でも看護師に確認し、職員で情報共有しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際は、基本情報、日常行動が分かるものを、開示提供しております。当事業所での習慣を継続して頂くためにも病院側にも把握して頂いております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した利用者様は、まずは今後の方向性を家族様の意向を尊重しております。在宅サービスを希望する方は、訪看等と些細なことでも連絡を取れるように連携を取っています。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合いを行い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を共有している。また、事業所の看護師やかかりつけ医と連携して支援できるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時の対応マニュアルはあるが、全ての職員が冷静に対応できるとはいきれない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	規定回数の避難訓練は当たり前ですが、訓練だけではみにつかない個所もあるので、電話機の上に対策マニュアルの準備をしている。	年2回、消防署の協力の下、昼夜間を想定した避難訓練を実施し、定期点検、緊急連絡網も整備している。また、地震についても市の防災センターの地震体験と一緒に参加し、利用者が取れる行動を理解し、安全に避難できる方法を検討している。	

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の生きてきた暮らしの中での尊厳を守り適切な対応をしている	一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した声かけや対応が出来るように職員全員で取り組んでいる。また、記録等の個人情報の取り扱いについては、十分に注意して取り扱っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どんなことに対しても利用者様の決定が一番になるようにしています。ですが、希望に添えないことがあれば、職員が説明をし納得していただく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは既に確立されているものがあるので、利用者様にはそれに沿った一日を送っていただく。ですが本人の意思を一番に優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の時は、まずは利用者さまが着たい物を優先するが、職員の意見も聞いてもらい少しもおしゃれな格好で外出してもらおう。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当事業所はとにかく食事が旨いと評判です。利用者様に聞いても、「楽しみは昼食だ」という人もいます。メニューもバランスのとれた食事提供をしております。	献立は調理担当の職員が栄養バランスや季節の食材に配慮した献立を作成し提供している。また、外食する機会を設け、食事が楽しみなものになるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	時期にはよりますが、夏場時期では少しでも多く水分摂取をして頂き、脱水症状の予防に努めております。他にも水が飲みにくい方には、コーヒー、お茶など、飲みやすい形で摂取して頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立で出来ている人には促しをしたり声かけにて行動してもらい、介助が必要な人には介助にて実施		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導や本人の意向を尊重し、トイレでの排泄を促し支援している	排泄パターンを把握し、声かけやトイレ誘導を行っている。また、プライバシーを損ねないような声掛け等を行い、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方への対応等は個人状況等により職員が判断し運動、水分量の調整等で取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	施設の業務上、ある程度の取り決めが必要で入浴日、順番等のルールに沿った方法で決定している。入浴決定権は利用者様主体	自宅で入浴する方が少なく、通所利用時は週2回を目安に支援している。また、一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて入浴を楽しめるようによもぎやハーブ等の入浴剤や利用者とのコミュニケーションを大切に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の体調を考慮した上で自由に行動して頂き、就寝時間もある程度個人の意思尊重もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員で確認しながら利用者様一人一人の薬について確認を取っている。だがまだまだ連携の取れていない部分もある		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	限られた時間の中ではあるが外出、外食、買い物等、気分転換に繋がる支援もしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	釧路では春夏秋冬で様々なイベントがあり、イベントに合わせ利用者様を誘い外出をしている。家族様とは中々行けないところに行く、利用者様も「来年も行きたいね」といった声が聞こえてくるので積極的に外出レクを行っている。	日常的な散歩や外気浴等、戸外に出かけられるように支援している。また、定期的に大型店への買い物ツアーや阿寒の道の駅や動物園、近郊の観光地への気分転換のドライブ、釧路市の港まつりや花見や紅葉散策等、普段行けない場所への外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様の方で職員での金銭管理をお願いされることが多いため、利用者様で金銭管理している方は、あまりいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員間で気付いた時ではあるが、「〇〇さんから最近連絡こないね」とさり気なく利用者様に伝え、なるべく期間が開かないうちに連絡している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	館内の装飾等、季節やイベントに合わせた雰囲気作りを実施するも過度の住環境の変化は配慮するよう心がけている。	畳のスペースや気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるよう椅子やテーブルを配置し、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。また、廊下の壁には、昔の釧路市の風景写真や行事、日常生活の様子を写真で掲示し、季節を感じる飾り付けが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	館内での行動に対し安全面に配慮した上で自由に自分の居心地のよい場所で過ごして頂けるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅の環境に近づける努力はしていますが限界があります。少しでも自宅で使用している物を利用し居心地のよい空間を目指しています。	泊まりの部屋は、本人が使い慣れた馴染みの物が持ち込めるスペースが確保され、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	茶碗拭き、布切り等の簡単なことはもちろんですが、屋食準備の皮むきなどもお願いします。安全面では職員の見守り強化に努めております。		



## 目標達成計画

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	企業理念も知らない職員がいる。	職員全体の士気をあげ、ひとつの目標にみんななで目指したい。	理念について理解してもらう。理念は忘れてはいけない事なので、年に何度か理念の認識、周知確認をする。	12ヶ月
2	6,7	虐待、身体拘束等は発生していないが、研修を行い、今後も無発生に努める努力をしたい。	職員が利用者様との関係で、虐待、身体拘束等の勉強会などのスキルアップを計りたい。	ここ数年介護事業所での虐待の件数が多いため、当事業所でも他人事ではないと感じている。介護職員のストレスが少しでも無くなるよう、会社側で配慮していきたい。	12ヶ月
3	14	人員不足から研修を受けさせることができない。	一人の職員に最低三回の研修参加をさせたい。少しでも、違う視点での介護を見ることによって自分に足りない所を身につけもらえるよう事業所で配慮する。	人員不足解決の為、今いる職員を一人でも長く務めて頂き、新しい人員も積極的に採用させ環境整備に努める。	
4	34	介護職員の同業者交流は出来ていない。	釧路市では小規模多機能の職員交換研修があるので全職員が参加できるようにしたい。	釧路市では小規模多機能の職員交換研修があるので全職員が参加できるようにしたい。	12ヶ月
5	45	現在救急搬送させる事案があまりなく、実際に事故発生した際の対応が不安。	職員全員が同じ対応ができるようになってもらいたい。	消防署で救命指導を受けたり、看護師に講習を開いてもらうなど、個人の知らない知識をみにつける。	12ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。

## サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

事業所のサービス評価の実施と活用状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った <input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した <input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした <input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した <input type="radio"/> ⑤その他( )
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した <input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った <input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った <input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った <input type="radio"/> ⑤その他( )
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった <input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた <input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た <input type="radio"/> ④その他( )
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った <input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った <input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った <input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った <input type="radio"/> ⑤その他( )
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した <input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する) <input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する) <input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む) <input type="radio"/> ⑤その他( )